

山梨の水に関する調査・研究の一覧（R7.2時点）

No	1.調査・研究題名	2.調査・研究概要	3.調査・研究機関	4.代表連絡先	5.調査・研究期間	6.調査・研究結果URL	7.備考
1	山中湖および精進湖における陸水学的重点調査	山中湖、精進湖の水質について、プランクトンと水質の関係を調査した。	衛生環境研究所	055-253-6721	H15-H16	13346973190.pdf (pref.yamanashi.jp)	
2	富士五湖ボーリングコア試料中の珪藻組成解析	山中湖底の泥と忍野盆地の土試料中の藻類（珪藻）を調べ、過去にあったとされる「宇津湖」の存在について考察した。	衛生環境研究所	055-253-6721	H15	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/1049/94972687014.pdf	
3	携帯端末を用いた湖流観察	携帯端末を装着した漂流ブイを湖に浮かべる方法で、山中湖の湖水の流れを調査した。	衛生環境研究所	055-253-6721	H19	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/1049/koryuukansatsu.pdf	
4	付着珪藻を用いた新しい河川水質評価法の検討	河川の石に付着している藻類（珪藻）の色を調べることにより、河川水質の評価を行った。	衛生環境研究所	055-253-6721	H21-H22	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/1049/eikankendayori_no79.pdf	
5	河口湖周辺源泉における温泉資源動向調査	河口湖周辺に存在する温泉水の湯量、水温および化学成分の調査を行った。	衛生環境研究所	055-253-6721	H28-H29	dayori92.pdf (pref.yamanashi.jp)	
6	山梨県内の環境水における元素起源と動態に関する研究－地下水・湧水中的のリン起源と微量元素－	県内地下水湧水に含まれるリンの起源を地質との関連を基に考察した。また、微量濃度の元素について地質との関連を考察した。	衛生環境研究所	055-253-6721	H11-H13	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/1049/057.pdf	
7	山梨県内の環境水における元素起源と動態に関する研究－河川水におけるリンの起源の推定－	河川水中のリンの起源を周辺地下水の調査結果を基に推定した。	衛生環境研究所	055-253-6721	H15	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/1049/93118189043.pdf	
8	南アルプス周辺（南部フォッサマグナ地域）の飲料水の水質状況とその特徴	H16年度からH22年度に山梨県が実施した水道水質検査結果を基に、水質状況を検討した。身延（峡南）保健所管内の延べ191試料を対象に、水道法に基づく50項目と電気伝導度（EC）について、最大・最小濃度や平均濃度について地域的な特徴を解析した。	衛生環境研究所	055-253-6721	H21-H22	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/1049/eikankendayori_no79.pdf	
9	山梨県内地下水の水質性状と時系列変化	本研究では、水道水に含まれるCaやMgについて、水試料が胚胎する地質要件や周辺地域の土地利用状況を比較し、これら元素の起源について検討した。	衛生環境研究所	055-253-6721	H24-H25	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/1049/84eikankendayori.pdf	
10	増富温泉地内自然湧泉のラドン濃度の経時的変化について	増富温泉の特徴成分である222Rn濃度を中心に温泉成分の季節変動を把握し、併せてこれらの湧出機構、起源の推定を検証した。また、現在利用されていない源泉の湧出地点を調査し、研究資料の整理を行なった。	衛生環境研究所	055-253-6721	H28-H29	60-3-01.pdf (pref.yamanashi.jp)	
11	ミネラルウォーター（MW）に含まれる元素の起源及び濃度特性に関する研究	本県産MWの水質性状を把握することを目的に、ppbレベルに含まれる微量濃度元素と主要な陽・陰イオン元素の濃度状況を捉え、地域的な特徴や濃度関連性について検討した。また、ICP-MS法による臭素の測定の可能性について検討した。	衛生環境研究所	055-253-6721	H29-H30	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/1049/dayori94.pdf	
12	石和・春日居温泉地域の温泉資源変化に関する研究	定時定点調査結果の泉温、湧出量、導電率等をもとに、熱量や成分量の変化状況の解析を行い、温泉資源の保全状況を明らかにすることを目的とした。	衛生環境研究所	055-253-6721	H30	nenpou62kennkyu1isawa.pdf (pref.yamanashi.jp)	
13	甲府盆地飲用地下水を中心とする水質特性の時系列解析および新規地下水調査	本県の飲用地下水の水質時系列変化や分布状況を解析し、硝酸性窒素濃度の動向などを解明した。井戸分布は釜無川や笛吹川およびその支流に分布し、盆地北部地域に飲用井戸の少ないこと、硝酸性窒素濃度の推移が明らかになった。	衛生環境研究所	055-253-6721	H19-H21	https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/kakonosourikenkadai.html#H19-3	総合理工学研究機構がコーディネート
14	自然公園における湖の水質管理に関する総合研究	自然公園内に立地している湖に対し、水草や貝類など生物を用いたエコテクノロジーを利用した水質管理方法を提言することを目的に研究を行った。その結果、草体の50%を刈取った場合、実験水域では窒素を0.9kg、りんは0.3kgを系外に取り出すことができるものと試算された。タテボンガイを用いて、貝の飼育実験を10ヶ月行った結果、生存率は約70%であった。	衛生環境研究所	055-253-6721	H20-H22	https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/kakonosourikenkadai.html#H20-1	総合理工学研究機構がコーディネート

No	1.調査・研究題名	2.調査・研究概要	3.調査・研究機関	4.代表連絡先	5.調査・研究期間	6.調査・研究結果URL	7.備考
15	生物利用型水質浄化システムの構築と応用に関する研究	水生植物と、二枚貝による水質浄化における生物の供給から利用方法までの技術を確立することを目的に研究を行った。その結果、水生植物と二枚貝を飼育することにより低い濁度を保つことが確認され、その有用性が明らかになった。また共存することで相乗的な効果が得られる可能性が示唆された。	衛生環境研究所	055-253-6721	H23-H25	https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/kakonosourikenkadai.html#H23-1	総合理工学研究機構が コーディネーター
16	富士北麓水資源の保全と活用のための水文科学研究	富士北麓の水環境を水文科学的に把握して水文モデルを構築することにより、地下水の適正な活用と保全を目指すため研究を行った。その結果、空間的な降水量の多少をレーダによる推定でうまく捉えていることが分かった。また、水の安定同位体比、主要イオン分析、微量元素分析を行った。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H25-H27	https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/h25-1/index.html	総合理工学研究機構が コーディネーター
17	酒造米および有色米の栽培と利用に関する研究	有望な酒造米や有色米の品種選定を行い、品質が安定する栽培技術を確立するとともに、酒造米の酒造適性や有色米の機能性の評価を行い、有利販売に結びつけることを目指し研究を行った。結果、吟醸酒用品種を選定し、その栽培技術を確立した。また機能性に優れた赤米、緑米品種を選定し、栽培技術を確立した。	総合農業技術センター	0551-28-2496	H21-H23	https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/kakonosourikenkadai.html#H21-2	総合理工学研究機構が コーディネーター
18	クニマスの生態解明及び増養殖に関する研究	絶滅したと考えられていたクニマスが西湖で発見された。しかし、その生態や形態的特徴などは不明な点が多いことから、保護と本県内水産漁業の振興を図るため、生態解明と増養殖技術の確立を目指し研究を行った。結果、クニマスの寿命、食性、湖内での生育場所、産卵時期や場所、養殖の可能性などが明らかになった。	水産技術センター	055-277-4758	H24-H26	https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/95915972019.html https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/kakonosourikenkadai.html#H24-3	総合理工学研究機構が コーディネーター
19	富士の介に関する研究	「富士の介」は、サケ・マス類の中で最も飼いやすとされるニジマスと肉質が良いとされるマスノスケ（英名：キングサーモン）の交配により誕生した山梨県の新たなブランド魚です。本研究では、「富士の介」の生産方法を確立するとともに、その飼育特性や肉質等について検討し、飼育のしやすさや食味の特徴など、養殖魚としての優れた特徴を明らかにしました。	水産技術センター	055-277-4758	H19-R2	https://www.nashiyousyoku.net/fujinosuke.html	富士の介に関する研究報告は多岐にわたるため、個別の研究成果へのリンク先が記載された県養殖漁協HPのURLを記載。
20	ぶどう搾り滓投与による養殖魚の品質向上	山梨県は、養殖に適した清冽で豊富な水資源に恵まれているため、ニジマス中心としたサケ・マス類の養殖が盛んに行われています。本研究では、山梨県産ニジマスのさらなる品質向上とブランド力強化のため、ワイン醸造過程で生じるぶどう絞り滓を飼料に添加してニジマスに投与したところ、成長、筋肉の色揚げ、生体防御能、鮮度保持等に効果があることが認められました。なお、山梨県養殖漁業協同組合では、本研究成果をもとに、一定期間ぶどう絞り滓を投与して育成した大型ニジマスを「甲斐サーモン・レッド」と命名し、ブランド化を図っています。	水産技術センター	055-277-4758	H23-H25	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/65434/jiho42_p1-8.pdf	
21	クニマスの保全並びに活用に関する研究	山梨県水産技術センターでは、絶滅したと考えられていたクニマスが2010年に西湖で発見されて以降、本種の保全に関する社会的な要求を背景に、基礎的な生態解明と域外保全に関する研究を実施しています。本研究では、西湖におけるクニマスの生息数や産卵環境などを明らかにしました。クニマスは地下水が湧き出る湖底の礫地で産卵していましたが、こうした産卵適地は限られており、クニマスを守るためには湖底湧水の保全が重要であることがわかりました。この他、域外保全策の一環として養殖技術の検討や代理親魚技術を用いたクニマスの作出を行いました。	水産技術センター	055-277-4758	H27-H29	https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/h27-3/index.html	総合理工学研究機構が コーディネーター
22	山梨県の水環境（特に地下水）の化学的特徴の把握	山梨県内の71ヶ所の地下水に含まれる微量元素を測定した。測定された30種類の微量元素濃度を地図上に見える化した。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H9-H12	http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/ar/index.htm	

No	1.調査・研究題名	2.調査・研究概要	3.調査・研究機関	4.代表連絡先	5.調査・研究期間	6.調査・研究結果URL	7.備考
23	富士山周辺における自然特性の把握 サブテーマ4 富士山の地下水	富士北麓地域の地下水110サンプルに含まれるバナジウム、フッ素ならびに酸素安定同位体を分析した。採水地点の位置と地形から採水地点を5群に分類し、それぞれの特徴を考察した。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H9-H13	http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/ar/index.htm	
24	山梨県の水質の地域特性とその健康影響に関する研究	山梨県を流れる河川および湖沼において54ヶ所で採水を行った。サンプルに含まれる微量元素（34種類）、陰イオン（4種類）、酸素安定同位体をそれぞれ分析し、地図上で見える化した。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H13-H15	http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/ar/index.htm	
25	富士山の火山活動に関する研究	富士山の火山活動を把握するためには、過去の長期間にわたる火山活動史を解明するとともに、火山噴火の前兆現象を観測することが重要である。本研究は、過去の富士山の火山活動の地域的な特徴や環境影響などの解明とともに、富士山の火山活動の現状を把握し、火山活動を予測するための基礎データの蓄積を目的とする。 また、地下水位・水温および水質の変化が観測され、火山活動の前兆現象に関わる変化および噴火後の変化が明らかにされている。このように地下水の諸変化は火山地帯においては火山活動との関連が指摘されており、地震および地盤変動と併せて噴火の前兆現象および噴火後の推移を予測する上で重要な観測項目とした。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H14-H18	http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/ar/index.htm	
26	富士山火山防災における観測及び情報の普及に関する研究	本研究は13研究課題の継続として、富士山の火山活動に関する観測・監視システムの強化を図るとともに、火山防災や火山学的な関心を深め、火山防災教育に資するプログラム等の開発と情報発信システムの構築を目的とした。また、火山活動の様式の変化に地下水が関係しているところから、観測の強化を目指した。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H19-H21	http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/ar/index.htm	
27	山梨県内地下水の保全と管理	山梨県内の主要な湧水・地下水の化学的な視点からの解明を中心として、さらに地下水質の近年における詳細なデータから物理的な観点を加え、相互の関係を基に地下水循環システムの解明する。これらの検討から、各流域圏における水収支および水質変化をふまえたうえで、望ましい保全・管理の方法を導き出す。さらに各流域圏における地下水につき現状の水位・水温等のモニタリングを実施した。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H19-H23	http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/ear-sci/thema/kiban_h19-23.html	
28	富士五湖（特に河口湖）の水質浄化に関する研究	河口湖におけるヘドロの分布状況を面的に把握し、過去50年間のヘドロの堆積速度の変化を明らかにするための研究を行なった。その結果、河口湖では、1960年頃より富栄養化と底質のヘドロ化が始まったこと、河川からの栄養塩の負荷は、40年前と比較してやや減少傾向にあるものの、依然として農地・生活排水起源の窒素流入が続いていること等が明らかとなった。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H25-H27	http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/ar/index.htm	
29	富士山の火山活動に関する地下水変動と火山噴出物の特性に関する研究	富士山の火山活動に関する研究の一環として、噴火現象に与える地下水の役割が大きいことから、地下水位等の連続観測を行ってきた。しかし、富士山のような新しく浸食が進んでいない火山体および山麓では地下水流動区の境界を設定するのが難しい。そこで、既往モニタリングデータと既設井戸を活用して水理特性が把握できれば、正確な水文境界を効率よく設定でき、水文学的水循環の研究を進展させることができる。富士火山山麓の地下水変動観測から変動特性を明確にする。これにより地層や地下水文区の水理特性を明らかにすることを目的とする。また、地下水区が設定できればそこの噴火活動での影響を評価できる。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H22-H27	http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/ear-sci/thema/kiban_h22-27.html	

No	1.調査・研究題名	2.調査・研究概要	3.調査・研究機関	4.代表連絡先	5.調査・研究期間	6.調査・研究結果URL	7.備考
30	北麓水資源の保全と活用のための水文科学的研究	富士山科学研究所では、前身となる環境科学研究所より引き続き、主に山梨県内の地下水・湧水の水質、特に化学的特性の検討を行ってきた。結果、地下水・湧水に含まれる特定の元素濃度について、顕著な地域差が認められること	富士山科学研究所	055-253-6721	H25-H27	https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/h25-1/index.html https://doi.org/10.5026/jgeography.126.73	総合理工学研究機構が コーディネート
31	富士山北麓・河口湖南岸の浅層地下水とその水質特性に関する研究	富士山北麓、河口湖南岸の浅層地下水の起源と水質特性を明らかにするために、富士河口湖町内に現存する古井戸の調査を行い、地下水の水素・酸素安定同位体比および主要溶存化学成分、微量元素の測定を行なった。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H26-H27	https://mfri.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=48&item_no=1&page_id=13&block_id=21	
32	富士山北麓、河口湖の湖底湧水に関する研究	本研究では、河口湖の湖底湧水の実態を探るため、電気伝導度水温水深計による水文調査並びに水中カメラおよびソナーを使った湖底調査を行なった。その結果、鶴の島東約100 mの地点で湖底湧水を新たに発見した。また、この場所で湧水を採取し、湖周辺の地下水と比較した結果、湧水の起源が御坂山地で涵	富士山科学研究所	055-253-6721	H27-H30	https://www.istage.jst.go.jp/article/jahs/47/2/4749/article/-char/ja/ https://www.istage.jst.go.jp/article/jgeography/129/5/129_129.665/article/-char/ja/	
33	富士山北麓（富士河口湖町）の地下水に関する研究	富士河口湖町の水道水源となっている地下水の水質特性の調査を行なった。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H28	https://www.istage.jst.go.jp/article/jagh/62/2/62329/article/-char/ja/	
34	河口湖の水質浄化に関する研究	河口湖におけるヘドロの分布状況を面的に把握し、過去50年間のヘドロの堆積速度の変化を明らかにするための研究を行なった。その結果、河口湖では、1960年頃より富栄養化と底質のヘドロ化が始まったこと、河川からの栄養塩の負荷は、40年前と比較してやや減少傾向にあるものの、依然として農地・生活排水起源の窒素流入が続いていること等が明らかとなった。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H28-H30	https://mfri.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=89&item_no=1&page_id=13&block_id=21	
35	富士山北麓における地下水涵養機構と深部地下水流動系の解明	富士山の世界文化遺産登録にともない、富士山麓の地下水・湧水が、観光及び水資源として注目されるようになった。しかし、それらの起源や流動系に関しては、必ずしも明瞭に解明されていないため、地下水資源の保全・開発の可能性にも着目しつつ、調査・研究を進めてきた。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H28-H30	https://doi.org/10.5026/jgeography.129.697	
36	河口湖の水位変動機構に関する研究	河口湖における長期的な水位変動の傾向とその要因を明らかにするために、過去100年間の水位データをまとめ、降水量との比較を行った。その結果、過去30年間の河口湖における年間水位上昇量と水位低下量には、少なくとも10年規模では有意差が見られず、近年の水位低下がより短期的（<10年）な水収支の変化を反映している可能性があることが明らかとなった。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H29	http://trail.tsuru.ac.jp/dspace/handle/trair/876	
37	山中湖・河口湖の水質浄化のための研究	山中湖・河口湖の水質浄化に向けた基礎資料として、山中湖の底質環境の現状を把握し、近年の底質汚濁の傾向とその要因を明らかにした。また、河口湖において、流入河川等が水質に与える影響を明らかにした。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H30-R2	http://id.nii.ac.jp/1639/00000188/ https://rdcu.be/cZmhN	
38	クニマスの保全及び養殖技術に関する研究	山梨県水産技術センターでは、絶滅したと考えられていたクニマスが2010年に西湖で発見されて以降、本種の保全に関する社会的要求を背景に、基礎的な生態解明と域外保全に関する研究を実施しています。本研究では、西湖におけるクニマスの産卵状況や外来ウナギによる卵の食害状況等を継続的に観察するため、長期間稼働可能な湖底定点カメラシステムを開発するとともに、外来ウナギの効率的な捕獲方法について検討しました。また、養殖技術の確立に向けて、本種の成熟に適した飼育環境について検討しました。	水産技術センター	055-277-4758	R1-R3	https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/h31-2/index.html	総合理工学研究機構が コーディネート
39	山梨の自然環境を活かした水稲高品質栽培法の開発	県内水稲産地における農業用水や土壌に含まれるケイ酸等の養分量を把握し、天然供給量を考慮した水稲高品質、安定生産技術の確立を目指す。	総合農業技術センター	0551-28-2496	①R1-R3 ②R3-R5	② https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/r03-3.html	②総合理工学研究機構が コーディネート

No	1.調査・研究題名	2.調査・研究概要	3.調査・研究機関	4.代表連絡先	5.調査・研究期間	6.調査・研究結果URL	7.備考
40	県産日本酒の競争力向上のための新規日本酒酵母に関する研究	山梨県には、日本酒製造に欠かすことのできない豊富な水資源があります。この水資源を体現できるような開発コンセプトに基づき、醸造適性に優れた県オリジナル日本酒酵母を開発中です。また、山梨県の醸造用水の硬度や微量成分の違いが、日本酒の品質に及ぼす影響の解明を目指しています。	産業技術センター	055-243-6111	R2-R6	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/115742/s02-01_.pdf	
41	放射性炭素を用いた富士五湖の水の起源に関する研究	富士五湖の湖水の放射性炭素濃度の経月変化を明らかにし、広域的な地下水との比較を行った。その結果、河口湖の湖水の放射性炭素濃度は他の湖に比べ極端に低く、河口湖の湖水は御坂山地の地下水による影響が大きいことが定量的に示された。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H30-	https://doi.org/10.1525/elementa.2020.00149	
42	富士山北麓、赤池の成因に関する調査研究	本研究では、2020年7月に9年ぶりに出現した赤池の水の採取に成功し、水質および安定同位体比の分析を行った。その結果、赤池の水の安定同位体比は、同時期に採取された精進湖の湖水とは明らかに異なっており、また、赤池出現後の降雨時に、赤池の水の安定同位体比が降雨試料側に大きな変化を示したことから、赤池に流入した水が主に直近の降雨に由来することが明らかとなった。	富士山科学研究所	0555-72-6211	R1-	https://doi.org/10.5026/jgeography.131.83	プレスリリース https://www.pref.yamanashi.jp/release/fujisanlb/0309/documents/akaik_e.pdf
43	山梨県の公共用水域および農業用水中における溶存ケイ酸濃度調査	山梨県内の河川水と農業用水において、稲の栽培に重要な成分であると考えられる溶存ケイ酸濃度の調査を行った。	衛生環境研究所	055-253-6721	R1-R2	3-4keisannnoudo2022.pdf (pref.yamanashi.jp)	
44	富士五湖の特性を用いた湖沼環境教育の提案	山梨県の貴重な観光・環境資源である富士五湖の特性を生かした体験型の環境教育の方法を検討し、資料を作成した。	衛生環境研究所	055-253-6721	R1-R2	10fujigoko.pdf (pref.yamanashi.jp)	
45	本県産ミネラルウォーター（MW）の特性に関する「見える化」研究	本県産ミネラルウォーター（MW）の味や香りの特徴を捉え、「のどごし」感を利用した「見える化」の可能性を検討した。	衛生環境研究所	055-253-6721	R1-R2	642honkansanmwtokusei.pdf (pref.yamanashi.jp)	
46	増富温泉地域の本谷川右岸の未利用源泉群の調査	当該地域に存在することは知られていたが、詳細な位置や、近年の状況が明らかになっていない無数の温泉について調査し、その現状を明らかにした。	衛生環境研究所	055-253-6721	H29-R2	641masutomionsentiiki.pdf (pref.yamanashi.jp)	
47	森林生態系モニタリング調査（水質・土壌）	森林タイプごとに林内雨、樹幹流、土壌水、河川等の量的・質的性質を調査し、森林タイプの違いが水環境と土壌に与える影響を把握した。	森林総合研究所	0556-22-8001	H9-H18	https://www.pref.yamanashi.jp/shinsouken/	
48	カラマツ人工林における水源涵養機能を強化するための森林管理手法の確立	カラマツ人工林における水源涵養機能を強化するために、表面流出や土砂流出特性と下層植生に着目し、森林管理の方法について考察した。	森林総合研究所	0556-22-8001	H30-R2	https://www.pref.yamanashi.jp/shinsouken/	
49	河口湖の水質浄化のための基礎的研究	河口湖における湖水中の栄養塩類の挙動を明らかにするとともに、栄養塩負荷の現状を明らかにし、底質汚濁機構の解明を図る。	富士山科学研究所	0555-72-6211	R3-		
50	富士の介に関する研究	「富士の介」は、サケ・マス類の中で最も飼いやすいとされるニジマスと肉質が良いとされるマスノスケ（英名：キングサーモン）の交配により誕生した山梨県の新たなブランド魚です。本研究では、「富士の介」の生産方法を確立するとともに、その飼育特性や肉質等について検討し、飼育のしやすさや食味の特徴など、養殖魚としての優れた特徴を明らかにしました。	水産技術センター	055-277-4758	H19-R2	https://www.nashiyousyoku.net/fujinosuke.html	富士の介に関する研究報告は多岐にわたるため、個別の研究成果へのリンク先が記載された県養殖漁協HPのURLを記載。

No	1.調査・研究題名	2.調査・研究概要	3.調査・研究機関	4.代表連絡先	5.調査・研究期間	6.調査・研究結果URL	7.備考
51	ぶどう搾り滓投与による養殖魚の品質向上	山梨県は、養殖に適した清冽で豊富な水資源に恵まれているため、ニジマス中心としたサケ・マス類の養殖が行われています。本研究では、山梨県産ニジマスのさらなる品質向上とブランド力強化のため、ワイン醸造過程で生じるぶどう絞り滓を飼料に添加してニジマスに投与したところ、成長、筋肉の色揚げ、生体防御能、鮮度保持等に効果があることが認められました。なお、山梨県養殖漁業協同組合では、本研究成果をもとに、一定期間ぶどう絞り滓を投与して育成した大型ニジマスを「甲斐サーモン・レッド」と命名し、ブランド化を図っています。	水産技術センター	055-277-4758	H23-H25	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/65434/jiho42_p1-8.pdf	
52	富士の介等の機能性面からの魅力向上	富士の介をはじめとした山梨県産サケマス類のブランド力の向上を図るため、サケマス類に豊富に含まれるとされるビタミンDに着目し、魚体中のビタミンDをさらに増加させるための飼料原料について明らかにするとともに、未利用部位の健康食品等への活用について検討する。	水産技術センター	055-277-4758	R4-R5	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/101653/fujinosuke_gaiyou.pdf	
53	小規模流域における土砂流出対策のための水文地形的要因に関する研究	土砂流出対策に資するために、近年の降水状況と地質に応じた土砂流出の原因を降雨解析、透水試験、土壌分析等により明らかにし、小規模流域での降雨-流出過程と地形的特徴を解明し、治山工事を計画する上での基準を検討する。	森林総合研究所	0556-22-8001	R3-R6	https://www.pref.yamanashi.jp/shinsouken/	
54	水源涵養機能の確保に向けたニホンジカと森林下層植生の管理に関する研究	森林の水源涵養機能を確保するために、効率的なニホンジカ捕獲に関する技術開発とその効果評価のための研究を実施する。	森林総合研究所	0556-22-8001	R1-R5	https://www.pref.yamanashi.jp/shinsouken/	
55	河口湖、精進湖、本栖湖のCODに関する研究	河口湖、精進湖、本栖湖において、有機汚濁の指標となる有機物質量（COD）について、その起源を探った。	衛生環境研究所	055-253-6721	R4-R5		
56	特定研究 河川の水質浄化及び自然再生手法に関する研究	山梨県土木部の依頼により県内の河川において水質を浄化するとともに生物の多様性を復元する手法を探ることを目的とする研究を実施した。極端な汚濁とヘドロ堆積、悪臭が発生する濁川・十郎川合流点付近を研究対象とし、生活排水等に加え背水（大水の際の河川の逆流）によるヘドロ堆積など汚濁原因を特定。負荷に対して河川敷の生態系の浄化能を約5%未満と推定。工事による流路変更と河川敷生態系の多様化を複合して、洪水時の最大流量を維持し、水位が低いときの流路を絞り込み流速を上げ、流路を蛇行させ植生と水流の多様化を企図する工事を研究所で基本設計・土木部により実施設計・施工した。施工直後は施工区間の下流で上流より高い濃度の汚濁がみられ流速上昇によるヘドロの掃流（水流が押し流すこと）が確認され、ヘドロの安定化後は施工前に見られなかった多種の魚類等の生息が確認でき、好条件下の計測では悪臭の原因となる有機汚濁の46%、濁りの原因となる浮遊粒子の30%が施工区間で浄化されていた。対比ケースとして忍野村内新名庄川で河川敷生態系の持つ自然の浄化力によって良好な環境が維持できる汚濁負荷を見積った。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H9-H11	https://mfri.repo.nii.ac.jp/records/122	環境科学研究所緑地計画学研究室 東京大学大学院協力機関 山梨県土木部 山梨県薬剤師会 による共同プロジェクト
57	特定研究 河川環境に与える外来植物の影響について	峡東建設事務所河川砂防第二課より依頼を受け、甲州市内を流れる重川をフィールドに侵略的外来種として繁茂するアレチウリ及びオオブタクサの生態的特性の研究を行い、自然条件下での衰退可能性や良好な環境を維持するための管理についての知見を得た。	富士山科学研究所	0555-72-6211	H17-H18	https://mfri.repo.nii.ac.jp/records/139	環境科学研究所 茨城大学理学部 による共同プロジェクト

No	1.調査・研究題名	2.調査・研究概要	3.調査・研究機関	4.代表連絡先	5.調査・研究期間	6.調査・研究結果URL	7.備考
58	プロジェクト研究 富士五湖周辺の自然環境変遷史に関する研究	富士五湖を対象に湖底堆積物を過去の環境史の記録と位置づけ、過去の自然環境の変遷を明らかにし、環境変動についての知見を得るための基礎研究。 ・音波探査による湖底地形と堆積物の質をとらえ、湖底の概形を浮き彫りにした。 ・湖底のボーリングにより大深度サンプルコアを取得し年代測定を実施し、堆積物が一万年を超える噴火史・環境史を記録している事を確認し、富士山北側で古富士の火山活動の記録を新規に得たほか、年代ごとの噴火活動の特徴が示された ・新たに石英粒子の化学分析を行い堆積物中の黄砂の量を正確に測定することにより、東アジア広域の長期的気候変動史・人間活動の寄与の証拠を得た ・湖底の表層に近い層の有機化学分析により人間活動に由来する汚染がそれぞれの湖にどう作用したかの変遷史が明らかになった	富士山科学研究所	0555-72-6211	H9-H13	https://mfri.repo.nii.ac.jp/records/152	環境科学研究所 衛生公害研究所 山梨大学 東京大学 大阪市立大学 金沢大学 による共同プロジェクト
59	基盤研究 世界文化遺産富士山の構成資産を流れる「福地用水」の継承に関する研究	富士山麓では湧水が豊富な一方、湧水より標高の高い地域では火山特有の地質で水が浸透しやすく水資源に限られ、古くから用水が発達し、生活や農業に利用されてきたが、次第に使われなくなってきている。桂川から富士吉田市上吉田地区へ引かれている用水は「福地用水」と呼ばれ、世界遺産「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産「北口本宮富士浅間神社」や「御師住宅」では「福地用水」が敷地内を横切り、聖域を限る水流としての姿をとどめている。構成資産と不可分の福地用水の管理・利用を考える基盤として福地用水の現状を現地調査によりGIS化し全体像を把握した上で、アンケート調査により把握した地元住民の意向と合わせて住民と自治体との合意が得られる保全を行い将来にわたって世界文化遺産の価値を維持し続ける用水の継承の在り方を検討した。	富士山科学研究所	0555-72-6211	R2-R4	https://mfri.repo.nii.ac.jp/records/2000114	
60	染色用水の水質の比較	富士吉田市を中心とする郡内地域は先染め織物の伝統的な産地であり、染色に用いる水の水質は発色や色彩を決める重要な因子である。そこで本研究では郡内地域の地下水、湧水、表流水などについて、先染め織物に対する適性を評価する基礎的データを蓄積し検証した。その結果、郡内地域の地下水や湧水は概ね軟水であり、染色を行う際の夾雑物は少ないと考えられた。また糸や生地に対する染料の染着性といった点から、郡内地域の水は先染め織物に適していることが分かった。	産業技術センター	055-243-6111	H24～H25		
61	山梨の自然環境を活かした水稲高品質栽培法の開発	県内水稲産地における農業用水や土壌に含まれるケイ酸等の養分量を把握し、天然供給量を考慮した水稲高品質、安定生産技術の確立を目指し試験を実施した。 灌漑水(24点)や土壌(514点)を分析し、灌漑水では火山性地質の河川から取水している圃場で、土壌では火山灰土の水田でそれぞれケイ酸含量が高いことを明らかにした。また、県内に流通するケイ酸資材を用い、水稲の収量・玄米外観品質へ与える効果について比較、検討を行った。有効と確認されたケイ酸資材を用いたケイ酸含量が低い圃場で栽培実証を行ったところ、増収効果が確認でき、さらに高温条件下において、玄米外観品質を改善する効果があることを確認した。 以上の結果を踏まえ、県内におけるケイ酸含量マップを作成するとともに、生産農家がケイ酸資材の要否を判断できるケイ酸施肥基準値を設定した。	総合農業技術センター	0551-28-2496	①R1-R3 ②R3-R5	②https://www.pref.yamanashi.jp/s-rikouken/r03-3.html https://www.pref.yamanashi.jp/documents/112835/r5_2_suitoukeisan.pdf	②総合理工学研究機構が コーディネート

No	1.調査・研究題名	2.調査・研究概要	3.調査・研究機関	4.代表連絡先	5.調査・研究期間	6.調査・研究結果URL	7.備考
62	アユの小型早期放流の実証試験	アユは本県漁業において重要であり、特に遊漁の対象として人気が高い魚種です。アユ資源は放流によって保たれていますが、近年はアユの不漁により、遊漁料収入が減少し、それに伴い放流量が減少しています。本試験では県内アユ漁場の平均的な規模の河川において、従来よりも早い時期に小型サイズで放流の方が費用対効果が高い放流方法であることが明らかとなりました。	水産技術センター	055-277-4758	R4-5	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/85138/r5_seika_2_ayu_early_release.pdf	
63	外来魚稚仔魚駆除を目的としたライトトラップの開発と実証	オオクチバス等の生態系への悪影響が強い魚の抑制駆除には、繁殖による生息増加を抑えることが重要ですが、潜水や刺し網など技能や経験を有する技術が必要となり誰でもできるとは限りません。本試験で開発されたライトトラップは漁協や市民団体の方でも実施が容易で、高い捕獲能力を有する新たな捕獲器具です。	水産技術センター	055-277-4758	R4-5	https://www.pref.yamanashi.jp/documents/85138/r4_seika_1_lighttrap.pdf	
64	山地流域でのニホンジカの捕獲技術の確立と森林下層植生への影響に関する研究	森林の水土保全機能を発揮させるために、山地流域でのシカの捕獲技術を確立させ、森林下層植生への影響を長期的、広域的に観測することを目的に、①シカ捕獲実証試験と捕獲効果の検証、②シカ個体数調査、③植生・土壌調査、④流域の森林、土砂流出調査を行う。	森林総合研究所	0556-22-8001	R6-10	https://www.pref.yamanashi.jp/shinsouken/	
65	富士湧水を利用した地域特産野菜類の生産技術の確立	富士北麓地域では、湧水を活用した伝統的な栽培により特産品の生産を継承しているが、生産者の高齢化などで産地維持が困難となっている。一方、地元では「富士山やさい」の観光需要が高まっている。そこで、地域資源「湧水栽培」を持続的に引き継げるよう、クレソン、水ネギなど既存品目の安定生産を目指すとともに、湧水栽培が可能な新規品目（湿地用カラー、野菜類など）の検索や復活品目（ニンニク、ホウレンソウ、麦など）についての検討を行い、湧水栽培の品目拡大と生産技術の確立を目指す。	総合農業技術センター	0551-28-2496	R5-R8		
66	富士の介等マス類養殖技術の効率化に関する研究	富士の介養殖特性の改良や魚病被害軽減等に関する試験研究	水産技術センター	055-277-4758	R5-9		
67	アユの生息に及ぼす環境要因と放流適期の解明	アユ放流効果改善のための環境特性に関する研究	水産技術センター	055-277-4758	R6-9		
68	ワカサギ資源増大技術の開発	富士五湖におけるワカサギの自然繁殖促進のための環境要因の解明	水産技術センター	055-277-4758	R6-10		
69	クニマスの保全と養殖に関する研究	クニマスの資源動向や域外保全に関する調査及び養殖技術確立に関する研究	水産技術センター	055-277-4758	R4-8		